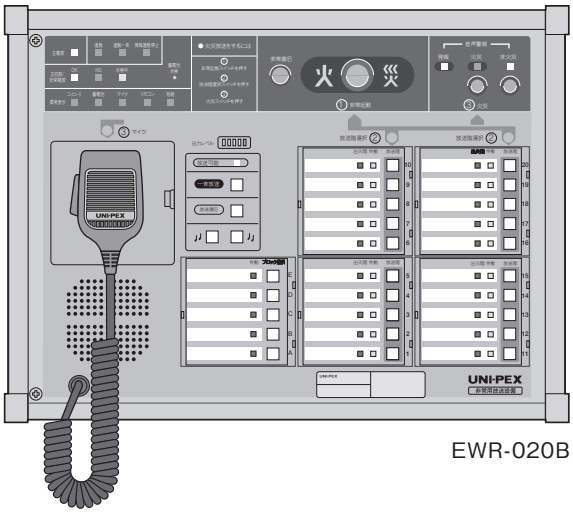
UNI-PEX

工事説明書

壁掛形非常用リモコン

連動式・10 回線　連動式・20 回線

EWR-010B EWR-020B



EWR-020B

工事の前に、この説明書をよくお読みいただきますようお願いいたします。

目　次

安全上のご注意 …… 2、3
使用上のお願い …… 4
設置工事の前に …… 5
設置のしかた …… 6、7
　1. 取付位置の決定 …… 6
　2. 操作パネルを開けます …… 7
　3. 本体を壁面に取り付けます …… 7
　4. 非常用放送設備と接続します …… 7
接続のしかた …… 8、9
各部の名称 …… 10、11
設置時の点検 …… 12～19
表示カードの使いかた …… 20
保守点検のしかた …… 21～23
　■点検について …… 21
　■電源の点検 …… 22、23

安全上のご注意　必ずお守りください

●設置工事の前に必ず、この「安全上のご注意」と工事、取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しく設置してください。
●お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この工事説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

◯記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。左図の場合は一般的な行為を指示する表示です。

⚠危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

蓄電池を分解／改造はしない
電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

蓄電池を火の中に入れない
火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。

蓄電池の＋／－端子をショートさせない
発熱、発火の原因となります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる
煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。
ただちに分電盤の電源を切り、保守契約店または工事店にご連絡ください。

工事は工事店に依頼する
工事には、技術と経験が必要です。、火災・感電、けが、器物損壊の原因となりますので、必ず、
工事店にご相談ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線、スピーカー線には触れない
感電の原因となります。

分解／改造はしない
火災・感電の原因となります。点検時以外にこの機器の裏ぶた、カバーなどは絶対に外さないください。
内部の点検・整備・修理は保守契約店または工事店にご依頼ください。

異物を入れない
水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切って、
保守契約店または工事店にご連絡ください。

通風孔をふさがない
通風孔をふさいだり、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。

決められたヒューズを使う
規定以外のヒューズを使うと火災の原因となります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

定期的に点検をする

非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。点検は保守契約店または工事店にご依頼ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。

蓄電池の充電は、必ずこの機器を使用する

この機器以外の充電器を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

蓄電池は、使用開始日から4年を経過したら、点検時に正常電圧が表示されても必ず新しい蓄電池に交換してください。また、寿命は使用状態により異なりますので、それ以前でも点検時に容量不足があれば、新しい蓄電池に交換してください。交換は保守契約店または工事店にご依頼ください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

指定以外の蓄電池は使用しない

蓄電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

蓄電池に張ってあるビニールカバーははがさない

ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

重量に耐える場所に取り付ける

取付場所の強度が不充分なとき、落下したりしてけがや破損の原因となることがあります。

蓄電池は、必ず点検をおこなう

蓄電池の点検は日常点検のほかに、外観点検および機能点検は6カ月に一度以上、総合点検は1年に一度以上行ってください。火災や故障の原因となることがあります。なお、点検費用については保守契約店または工事店にご相談ください。

機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読みください。機器の接続は保守契約店または工事店にご依頼ください。

使用上のお願い

●日常点検をしてください。

万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。特に非常電源の点検は必ずおこなってください。（点検方法は「保守点検のしかた」の項をごらんください。）

●日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。修理・復旧を実費でおこないます。

くわしくは販売店にご相談ください。

●日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。必ず定期点検をおこなってください。

●保守契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持、台帳への記録が**義務づけられています。**
建物の規模、用途によっては**消防設備士**、または自治大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
非常業務兼用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店（工事店）または販売会社にお問い合わせください。
保守契約を締結していただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士（第4類甲、乙、第7類乙）」・「第2種消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。**

●分電盤のスイッチは絶対に切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。 非常放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源（蓄電池）が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので分電盤などのスイッチには本体に付属の非常放送用注意ラベルを貼付し、絶対に“切”にならないようにしてください。

●設置について

- **本機の上や周囲に物を置かないでください。**
  本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障の原因となります。
  また、左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。
- **操作説明書は本機の近くに置いてください。**
  非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。
  本機の上には絶対に置かないでください。（設定した起動方式のページを透明ケースに入れてください。）
- **本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しない。またはそれらを近付けないでください。**

※高周波機器（乾燥機,医療機器など）、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器（コンピューター、電子楽器など）、空気清浄器。

●お手入れのしかた

ケースが汚れたらうすめた台所用洗剤を布にしみ込ませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、から拭きしてください。

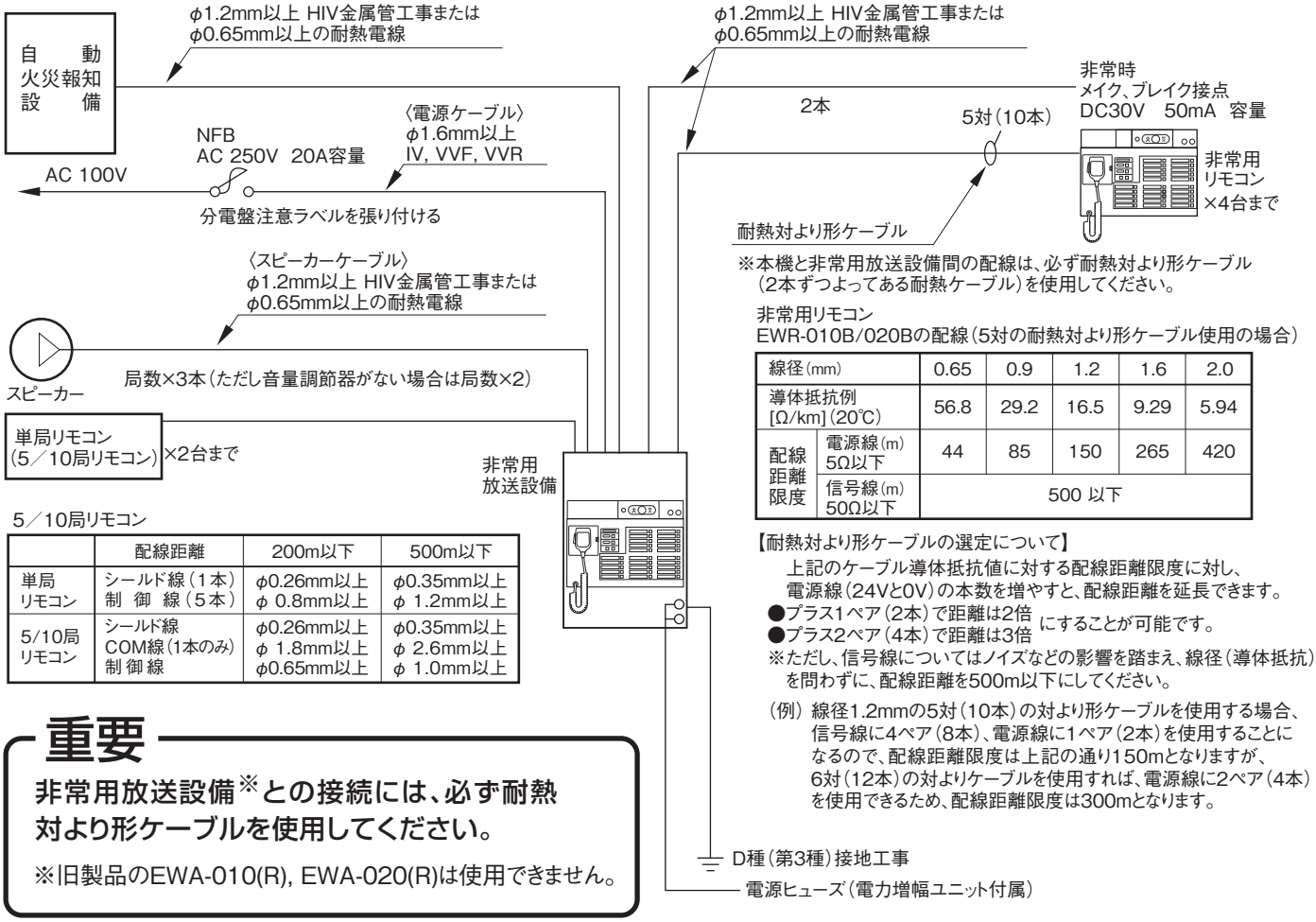
お願い

- 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。
- 化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

設置工事の前に

■接続線について

接続線は、下図を参考にご用意いただくようお願いいたします。



※本機と非常用放送設備間の配線は、必ず耐熱対より形ケーブル（2本ずつよってある耐熱ケーブル）を使用してください。

非常用リモコン
EWR-010B/020Bの配線（5対の耐熱対より形ケーブル使用の場合）

線径(mm)		0.65	0.9	1.2	1.6	2.0
導体抵抗例 [Ω/km](20℃)		56.8	29.2	16.5	9.29	5.94
配線距離限度	電源線(m) 5Ω以下	44	85	150	265	420
	信号線(m) 50Ω以下	500 以下				

【耐熱対より形ケーブルの選定について】

上記のケーブル導体抵抗値に対する配線距離限度に対し、電源線（24Vと0V）の本数を増やすと、配線距離を延長できます。

- ●プラス1ペア（2本）で距離は2倍
- ●プラス2ペア（4本）で距離は3倍

にすることが可能です。

※ただし、信号線についてはノイズなどの影響を踏まえ、線径（導体抵抗）を問わずに、配線距離を500m以下にしてください。

（例）線径1.2mmの5対（10本）の対より形ケーブルを使用する場合、信号線に4ペア（8本）、電源線に1ペア（2本）を使用することになるので、配線距離限度は上記の通り150mとなりますが、6対（12本）の対よりケーブルを使用すれば、電源線に2ペア（4本）を使用できるため、配線距離限度は300mとなります。

5／10局リモコン

	配線距離	200m以下	500m以下
単局リモコン	シールド線（1本） 制 御 線（5本）	φ0.26mm以上 φ 0.8mm以上	φ0.35mm以上 φ 1.2mm以上
5/10局リモコン	シールド線 COM線(1本のみ) 制 御 線	φ0.26mm以上 φ 1.8mm以上 φ0.65mm以上	φ0.35mm以上 φ 2.6mm以上 φ 1.0mm以上

重要

非常用放送設備※との接続には、必ず耐熱対より形ケーブルを使用してください。

※旧製品のEWA-010(R), EWA-020(R)は使用できません。

■工事に必要な工具

電動ドリル
アンカーボルト　} コンクリート壁に取り付けるとき
木ねじ
板壁用アンカーボルト　} 板壁に取り付けるとき
ハンマー
スケール

ドライバー　プラス4mm用、マイナスドライバー
ラジオペンチ
電工ニッパー
アンカー取付工具
圧着用工具

■工事の順序

次の順序で工事をおこなってください。

設置 ➡ **接続** ➡ **動作確認**

設置のしかた

●次の手順で設置をおこないます。

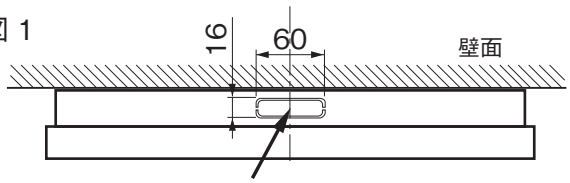
1. 取付位置の決定

❶非常起動スイッチの位置が床面から1.1～1.5mの範囲内にくるように、本機の取付位置を決めてください。(図2参照)

- 本機は埋込、露出の2種類の配管方法が可能です。使用される通線口切り取り部分をニッパーなどで切り取り、通線口周辺に付属のグロメットを取り付けてください。(図 1～5 参照)

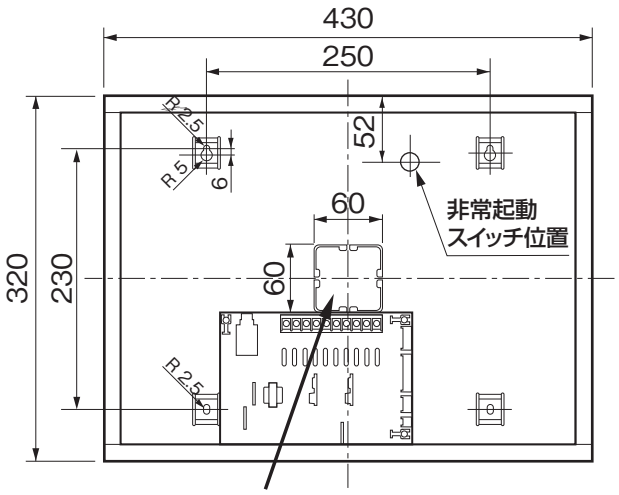
※ケーブルを傷つけないように保護するため、必ずグロメットを取り付けてください。

図 1



※露出配管時通線部
(通線時はニッパーなどで切り取り、
付属のグロメットを通線口周囲に取り付ける。)

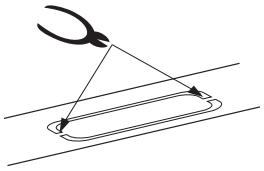
図 2



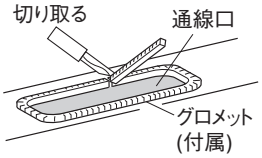
※埋込配管時通線部
(通線時はニッパーなどで切り取り、
付属のグロメットを通線口周囲に取り付ける。)

●グロメット(付属)の取付方法 図 3

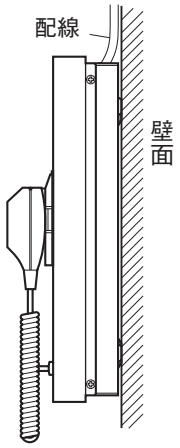
❶ 連結部をニッパーなどで切り取る



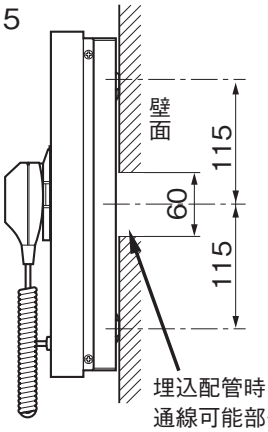
❷ 通線口周辺にグロメットを取り付け、余った部分を切り取る



●露出配管のとき 図 4



●埋込配管のとき 図 5



〔コンクリート壁のとき〕 ※壁面は、耐荷重10kg以上のコンクリート壁を選びます。

- 電動ドリルで穴をあけアンカーボルトを打ち込みます。

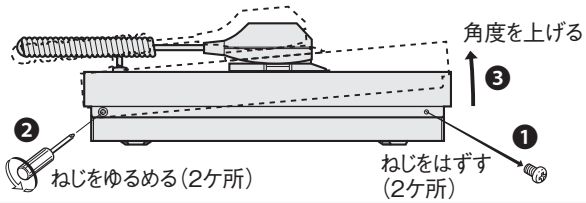
〔板壁などのとき〕 ※木造やボード製の間仕切り程度に使用されている壁などへの取り付けは避け、しっかりした柱や板厚20mm以上の板壁を使用します。

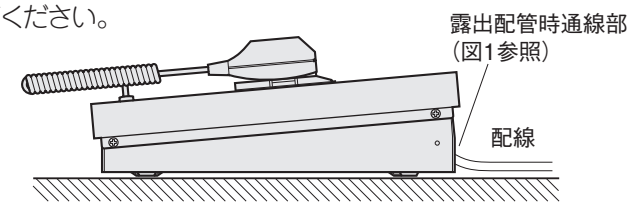
- 電動ドリルで穴をあけ板壁用アンカーボルトを打ち込みます。また、板壁用アンカーボルトが使用できないような所は、木ねじを使用します。

卓上に設置する場合

❶本機側面上部のねじ2本をはずします。(図6参照)
❷本機側面下部のねじ2本をゆるめます。(図6参照)
❸操作パネルの角度を上部のねじ穴に合うまで矢印の方向に上げて、再びねじで固定してください。
ゆるめた下部のねじも元どおりに締め直してください。

図 6

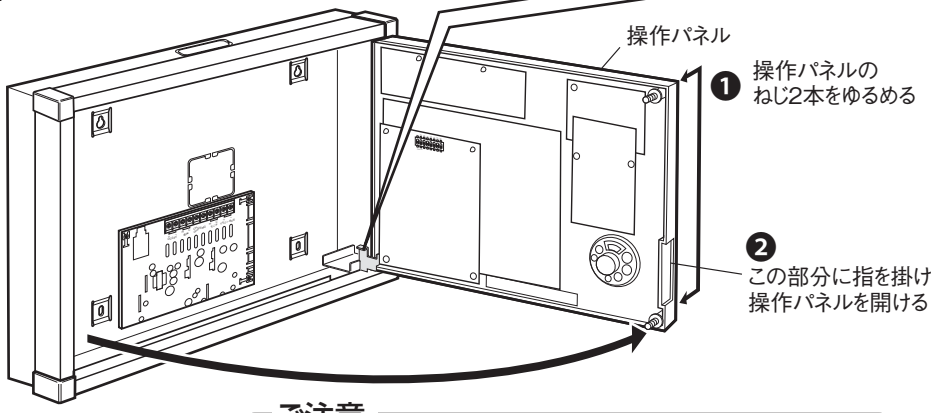




2. 操作パネルを開けます。

❶操作パネル左隅のねじ2本をゆるめる。(図 7参照)
❷操作パネルを開け、パネルのストッパーを下げロック状態にする。(図 8参照)

図 7

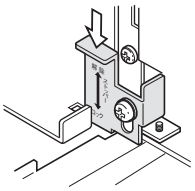


ご注意
必ずパネルストッパーのロック状態を確認してから、本機の取付作業をおこなってください。

図 8

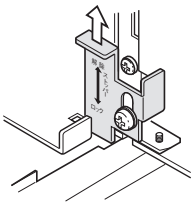
操作パネルストッパー

●ロック状態
ストッパー金具を下げる



壁面に取り付けた状態では操作パネルを開き切りますと、ストッパー金具が降りロック状態になります。

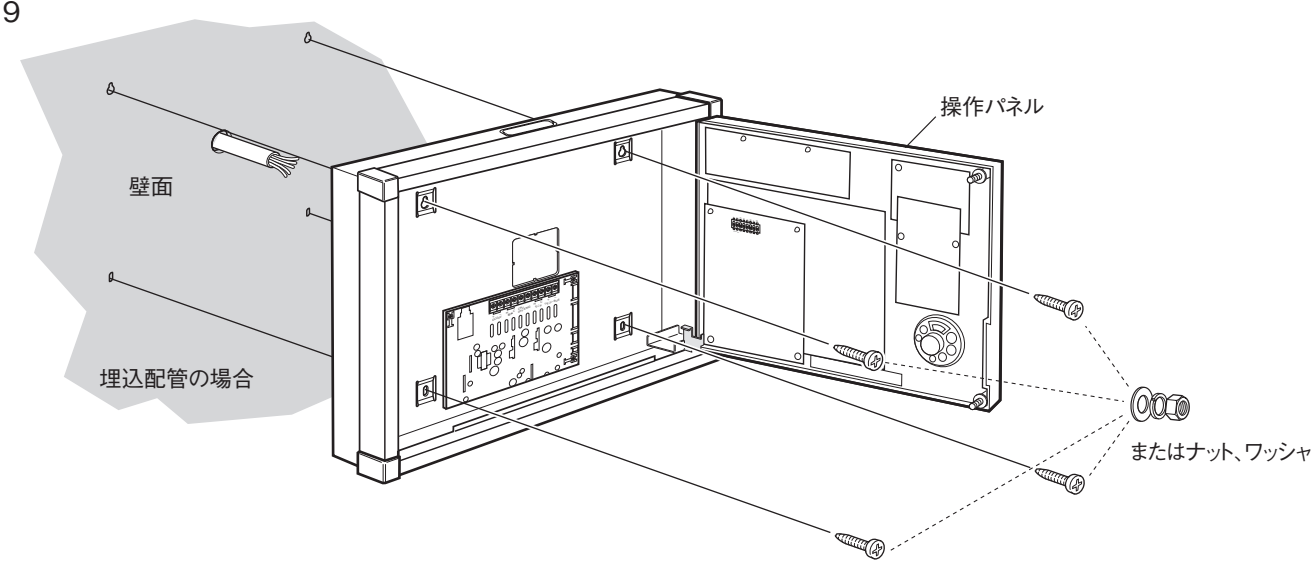
●ロック解除
ストッパー金具を上げる



3. 本体を壁面に取り付けます。

❶本体4ケ所の取付穴を通しナットや木ねじで固定します。(図 9参照)
❷続けて接続作業をおこなわない場合はパネルストッパーのロックを解除して操作パネルを閉めてください。

図 9



お願い
埋込配管の時はあらかじめケーブルを適当な長さに引き出しておいてください。

4. 非常用放送設備と接続します。

❶操作パネルを開け、パネルのストッパーを下げロック状態にする。(図 7参照)
❷各々の接続線を接続します。(8、9ページ)

接続のしかた

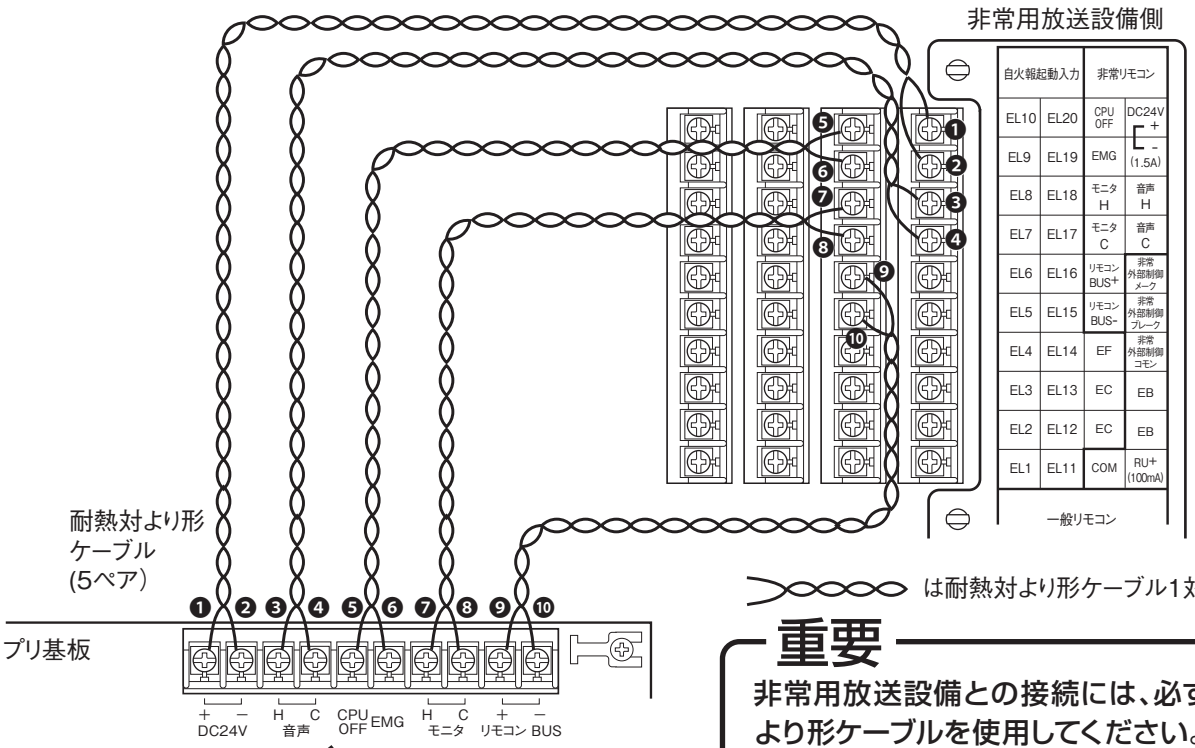
⚠警告

工事は、必ず分電盤のスイッチを「切」にしてからおこなってください。感電の原因になります。

●入出力制御端子

外来ノイズに対して信号線（データ線も含む）は耐熱対より形ケーブルを使用してください。
（平行線ではノイズの影響によって、信号［データ］が乱れることがありますので使用しないでください。）

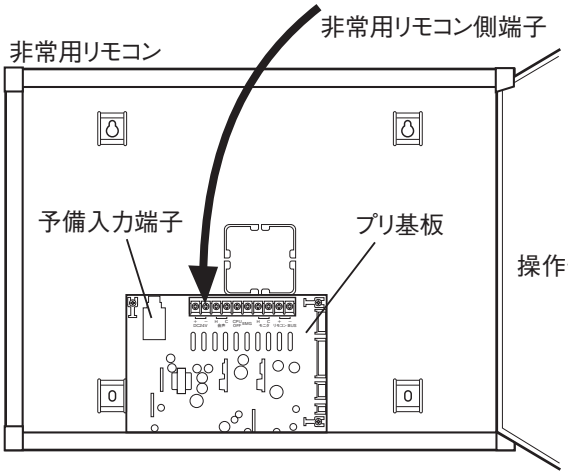
接続する端子にショートバーが付いている場合は必ずショートバーをはずす。



は耐熱対より形ケーブル1対を示します。

重要

非常用放送設備との接続には、必ず耐熱対より形ケーブルを使用してください。

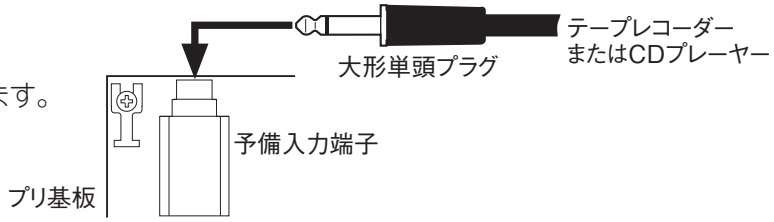


	非常用リモコン側	非常放送設備側
❶	DC入力24V＋端子	DC出力24V＋端子
❷	DC入力24V－端子	DC出力24V－端子
❸	音声出力H端子	音声入力H端子
❹	音声出力C端子	音声入力C端子
❺	CPU OFF端子	CPU OFF端子
❻	EMG端子	EMG端子（非常起動端子）
❼	モニター H端子	モニター H端子
❽	モニター C端子	モニター C端子
❾	リモコンBUS＋端子	リモコンBUS＋端子
❿	リモコンBUS－端子	リモコンBUS－端子

●予備入力端子

（−22dBV　10kΩ　不平衡）

・出力は非常業務兼用マイクとの切り換えになります。



●非常用リモコンを2台～4台接続するとき

非常用放送設備に接続する非常用リモコンの台数に応じて制御基板上のディップスイッチ（S1）の設定をおこなってください。

設定方法

❶操作パネルを開ける。（P7の操作パネルの開きかたの説明参照）

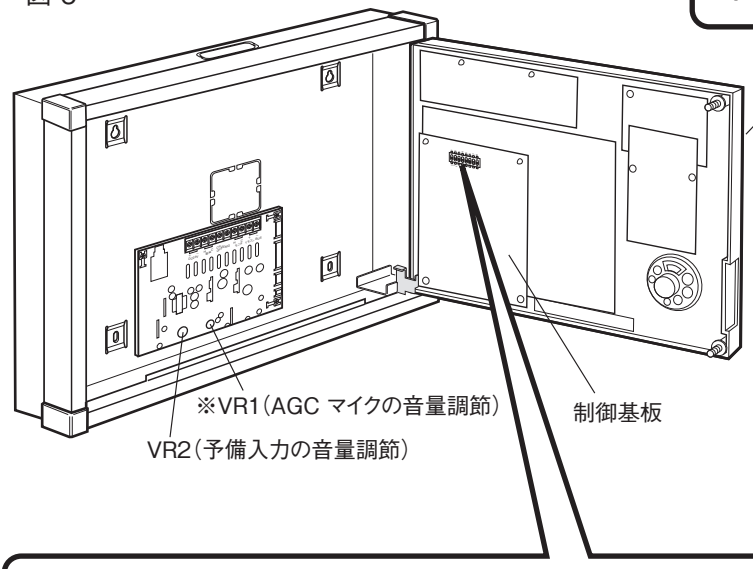
❷操作パネル裏側の制御基板上にあるディップスイッチを表1に従って設定してください。（図6参照）
設定後、操作パネルを閉めてください。

❸非常用放送設備側のリモコン台数の設定をおこなってください。（非常用放送設備本体の工事説明書（本編）24、25ページ参照）

ご注意

非常用リモコン4台は、全く同じ動作となります。
（ただし、業務放送では後押し優先となります。

図 6



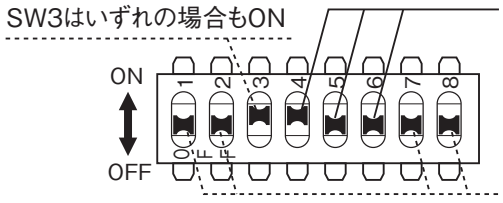
※リモコンマイクの音量調節

VR1（AGCマイク）を反時計方向に回して、マイク入力を減衰させ、リモコンマイクの出力を調節することが可能です。

⚠注意

放送される音声レベルも変化しますので、ご注意ください。

ディップスイッチ　S1



SW4/5/6
非常用放送設備に接続する非常用リモコンの台数に応じて設定します。

SW1・2・7・8はいずれの場合もOFF

表1　ディップスイッチ（S1）の設定　（※出荷時の設定）

接続リモコン台数	1台目の設定	2台目の設定	3台目の設定	4台目の設定
接続リモコン1台の場合	※			
接続リモコン2台の場合	※			
接続リモコン3台の場合	※			
接続リモコン4台の場合	※			

各部の名称

主電源表示灯
[主電源]

コンピューター異常表示灯
[コンピュータ]

蓄電池異常表示灯
[蓄電池]

マイク異常表示灯
[マイク]

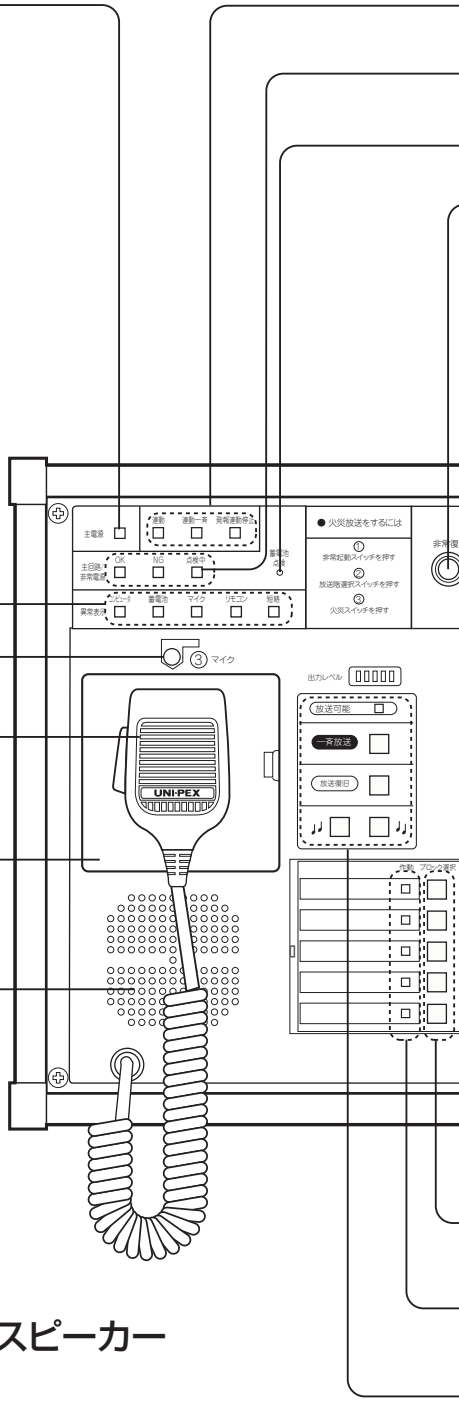
リモコン回線異常表示灯
[リモコン]

短絡表示灯
[短絡]

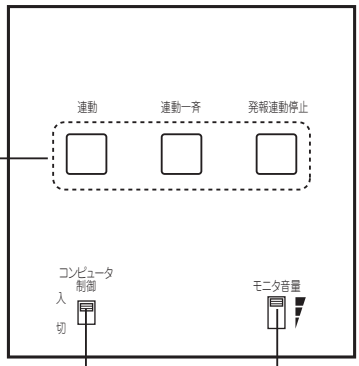
マイク指示灯[マイク]

非常・業務兼用マイク

マイクドア



マイクドア内



モニタースピーカー

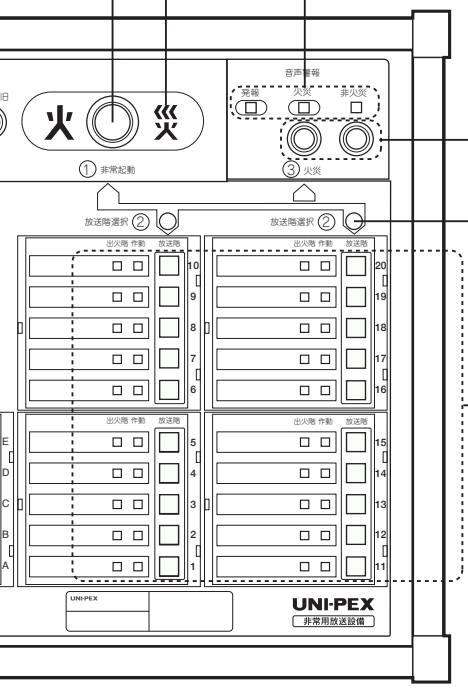
連動スイッチ
[連動]

連動一斉スイッチ
[連動一斉]

発報連動停止スイッチ
[発報連動停止]

モニター音量スイッチ
[モニタ音量]

コンピューター制御スイッチ
[コンピュータ制御入／切]



連動表示灯
[連動]

主回路電源電圧正常表示灯
[OK]

連動一斉表示灯
[連動一斉]

蓄電池点検スイッチ[蓄電池点検]

主回路電源電圧異常表示灯
[NG]

発報連動停止表示灯
[発報連動停止]

非常復旧スイッチ[非常復旧]

非常起動スイッチ[非常起動]

点検中表示灯
[点検中]

火災灯[火災]

音声警報／発報放送表示灯
[発報]

火災放送スイッチ
[火災]

音声警報／火災放送表示灯
[火災]

非火災放送スイッチ
[非火災]

音声警報／非火災放送表示灯
[非火災]

放送階選択指示灯
[放送階選択]

出火階表示灯
[出火階]

作動表示灯
[作動]

放送階選択スイッチ
[放送階]

ブロック選択スイッチ
[ブロック選択]

作動表示灯[作動]

放送可能表示灯
[放送可能]

一斉放送スイッチ
[一斉放送]

放送復旧スイッチ
[放送復旧]

コールサイン
[♩♩]上りスイッチ
[♩♩]下りスイッチ

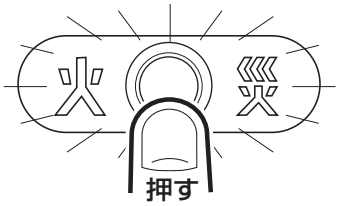
設置時の点検

1．非常用放送設備（本体）側の接続はすべて済みましたか？
2．本体との接続は済みましたか？
3．本体に取り付けた電力増幅ユニットの電源スイッチを「ON」にしましたか？
4．本体との接続は確実におこないましたか？

以上を確認後、動作点検をおこなってください。

■動作点検（非常放送）

1 手動で非常起動スイッチを押します。火災灯が点灯し、放送階選択指示灯が点滅しますか?

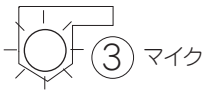


- 手動のとき押すと、火災灯が点灯します。

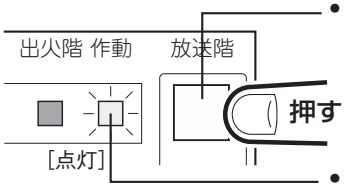
- 非常時、オレンジ色に点滅します。
- 点滅しているとき、放送階選択スイッチを押すと点灯にかわります。

2 マイク指示灯が点滅していますか?

- 非常時、オレンジ色に点滅します。



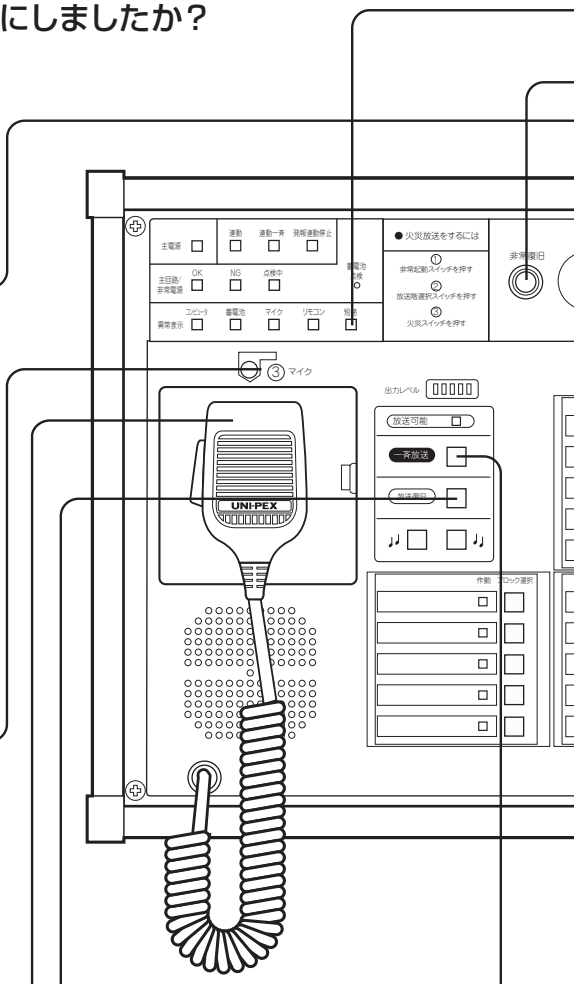
3 放送階選択スイッチを1カ所押します。押された階の作動表示灯が点灯し、音声警報放送（発報または火災放送）が流れますか?



- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。（作動表示灯が緑色に点灯）
- 放送階選択スイッチを押すと緑色に点灯します。
- 火災灯が点滅または点灯します。

4 マイクをはずし、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、アナウンスが3で押された階に流れますか?

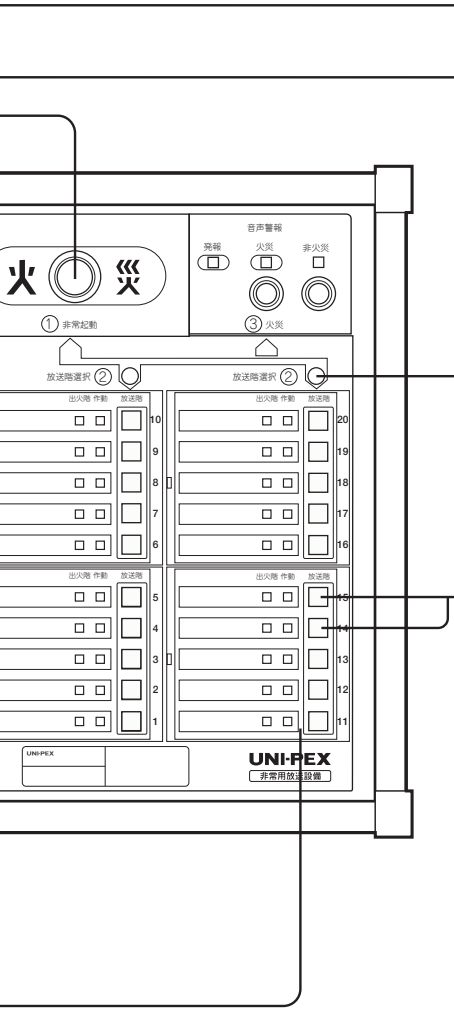
- スイッチを押しながら放送します。



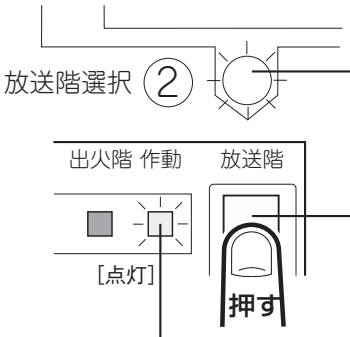
5 一斉放送スイッチを押しアナウンスします。すべての作動表示灯が点灯し、全館にアナウンスが流れますか?

6 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。作動表示灯が消えスピーカー放送も切れますか?

※第2タイマーにより一斉火災放送に移行した後は、放送復旧スイッチは無効となります。非常復旧スイッチを押して1からやりなおしてください。

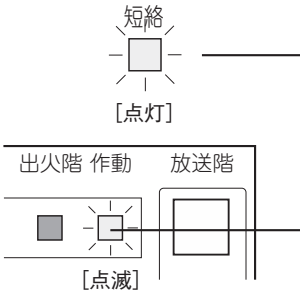


7 **放送階選択指示灯が点滅し、任意の放送階選択スイッチを2、3カ所押します。**
放送階選択指示灯が点灯し、作動表示灯が点灯しますか?



- 点滅しているとき、放送階選択スイッチを押すと点灯にかわります
- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。(作動表示灯が緑色に点灯します。)
- 放送階選択スイッチを押すと緑色に点灯します。

8 ***7*** **で押した階のいずれか1つのスピーカー回線を短絡させます。(火災または非火災放送を出力してください)短絡表示灯が点灯し、短絡させた階の作動表示灯が点滅しますか?**



- スピーカー回線が短絡すると赤色に点灯します。
- 短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。
- 短絡状態を解除します。

一斉放送

- 一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。
- 火災灯が点灯します。

放送復旧

- 放送復旧スイッチを押すとすべての作動表示灯が消えます。

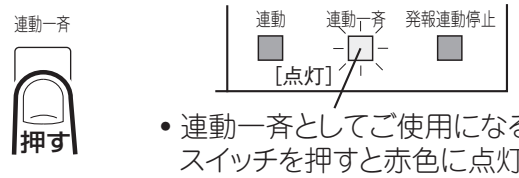
9 ***8*** **の状態で、分電盤のスイッチを「切」にします。**
8 **の状態が継続していますか?**
(確認後、すぐに分電盤のスイッチを「入」にしてください。)

10 **非常復旧スイッチを押します。**
火災灯、放送階選択指示灯、点灯している作動表示灯、マイク指示灯が消えますか?

11 **コンピューター制御スイッチ(マイクドア内)を「切」にしてから「入」にしてください。**
短絡表示灯、点滅している作動表示灯が消えますか?

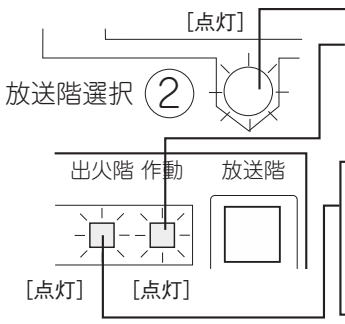
設置時の点検

12 連動一斉スイッチを押します。連動一斉表示灯が点灯しますか?



- 連動一斉としてご使用になるとき、連動一斉スイッチを押すと赤色に点灯します。

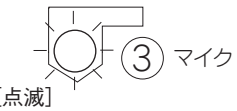
13 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子をショートします。火災灯が点滅、全館に音声警報放送が流れ、放送階選択指示灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が点灯しますか?(ブロック作動灯は点灯しません。)



- 非常時、オレンジ色に点灯します。
- 非常時、すべての作動表示灯が緑色に点灯します。
- 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。
- 一つの階に複数の室があるときは、その階のすべてが赤色に点灯します。

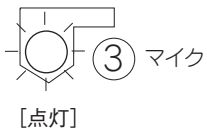
14 マイク指示灯が点滅していますか?

- 非常時、オレンジ色に点滅します。

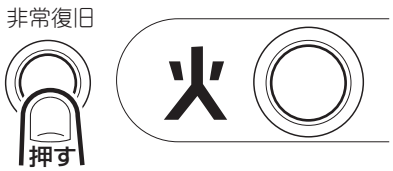


15 マイクをはずし、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、アナウンスがすべての階に流れますか?

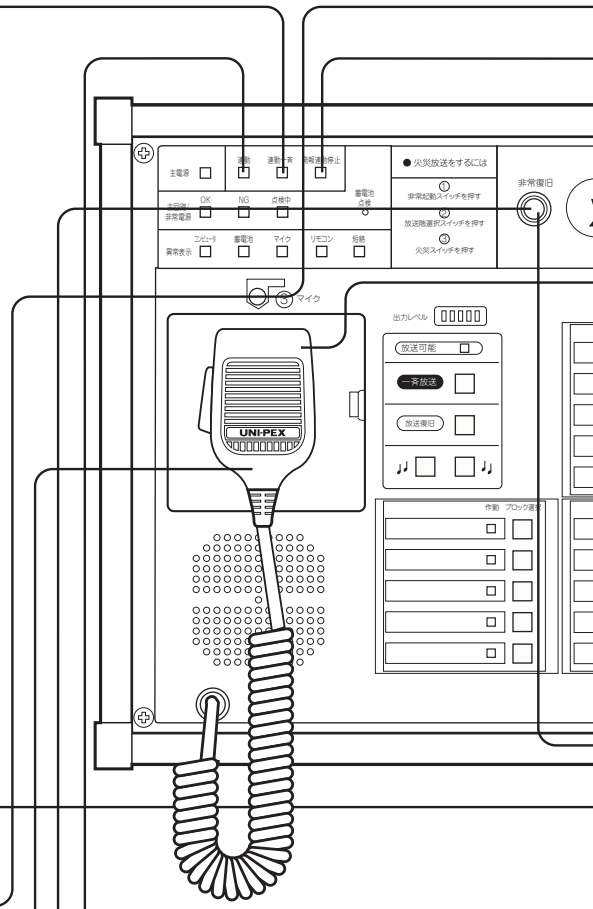
- スイッチを押しながら放送すると点灯します。



16 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子を復旧し非常復旧スイッチを押します。火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか?

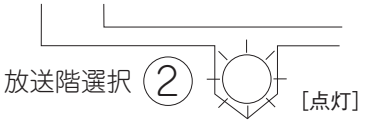


- 非常放送を復旧させるときこのスイッチを押します。

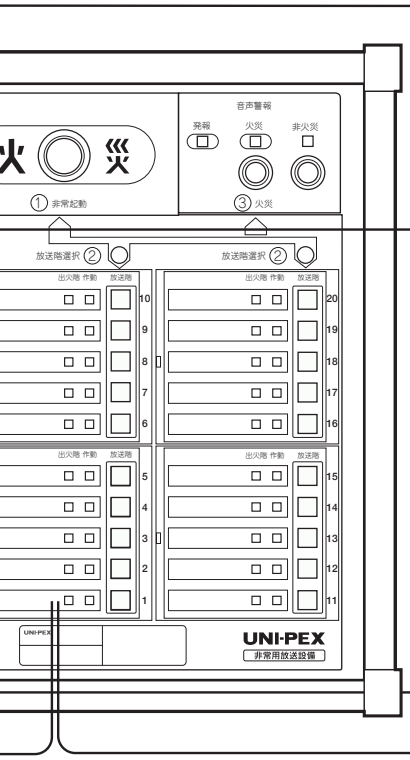


17 連動スイッチを押します。「連動一斉」が消え連動表示灯が点灯しますか?

18 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子をショートします。火災灯が点滅し、音声警報放送が流れ放送階選択指示灯、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた出火階および連動階などの作動表示が点灯しますか?

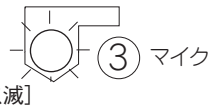


- 非常時、オレンジ色に点灯します。



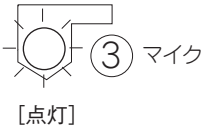
19 マイク指示灯が点滅していますか?

- 非常時、オレンジ色に点滅します。

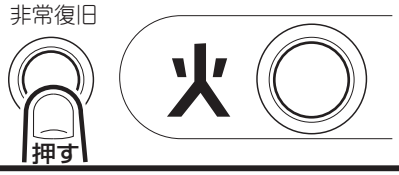


20 マイクを外し、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、出火階、連動階などにアナウンスが流れますか?

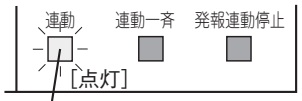
- スイッチを押しながら放送すると点灯します。



21 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子を復旧し非常復旧スイッチを押します。火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか?

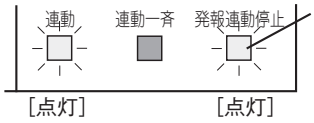


- 非常放送を復旧させるとき、このスイッチを押します。



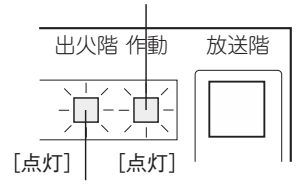
- 連動としてご使用になるとき、連動スイッチを押すと赤色に点灯します。

22 発報連動停止スイッチを押します。発報連動停止表示灯が点灯しますか?押すと消灯しますか?



- 発報連動停止スイッチを押すと赤色に点灯します。

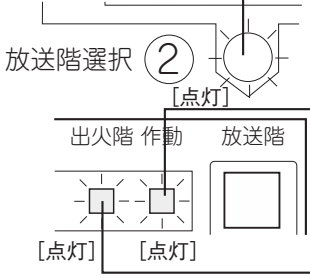
- 非常時、出火階および連動階などの作動表示灯が点灯します。(出火階指定で書き込まれたモードで作動します。)



- 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。
- 一つの階に複数の室があるときは、その階のすべてが赤色に点灯します。

23 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子をショートします。火災灯が点滅し、モニタースピーカーから火災音信号「ピー、ピー、ピー」が鳴り、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた出火階および連動階などの作動表示灯が点灯しますか?

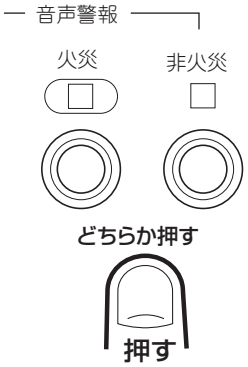
- 非常時、オレンジ色に点灯します。



- 非常時、出火階および連動階などの作動表示灯が緑色に点灯します。(出火階指定で書き込まれたモードで作動します。)
- 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。
- 一つの階に複数の室があるときは、その階のすべてが赤色に点灯します。
- マイク指示灯が点滅します。

設置時の点検

24 火災放送スイッチはまたは非火災放送スイッチを押します。自動的に出火階、連動階などに火災放送または非火災放送が流れますか?(火災放送は次の操作まで、非火災放送は2回、繰り返し流れます。)



火災放送

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）

非火災放送

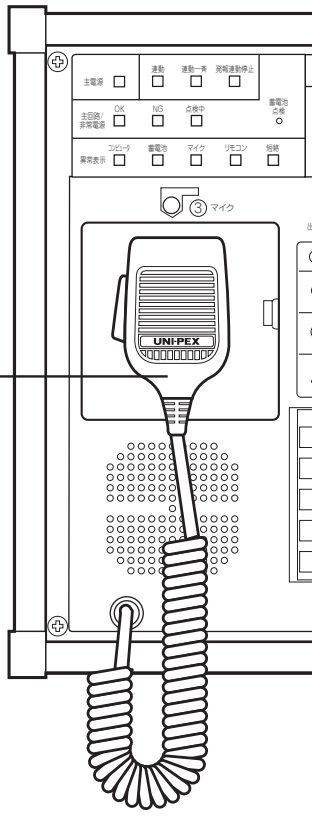
ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

- 火災音信号(ピー、ピー、ピー)が消えます。

25 マイクを外し、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、出火階、連動階などにアナウンスが流れますか?

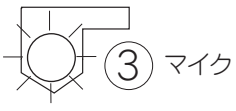
- スイッチを押しながら放送すると点灯します。

［点灯］

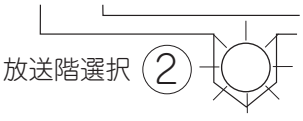


26 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。作動表示灯が消え、放送階選択指示灯、マイク指示灯が点滅し、音声警報音が止まりますか?

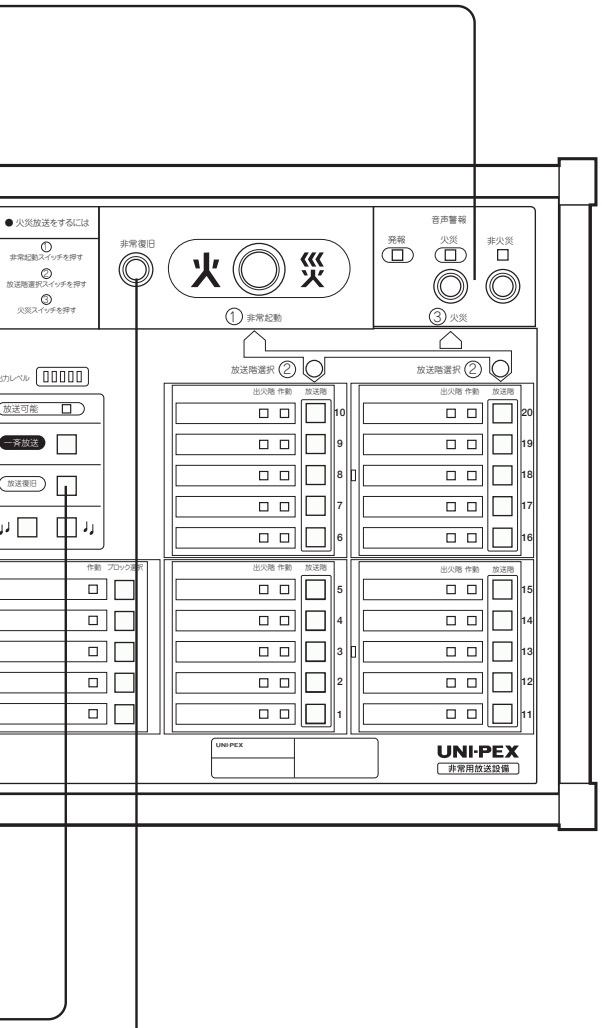
- 放送復旧スイッチを押すと作動表示灯が消え、放送階選択指示灯、マイク指示灯が点滅します。



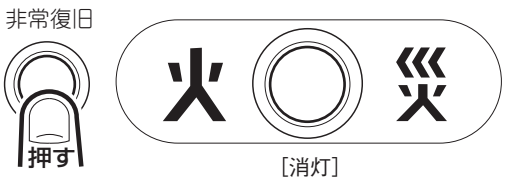
［点滅］



［点滅］



27 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子を復旧させ、非常復旧スイッチを押します。
火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯が消えますか?



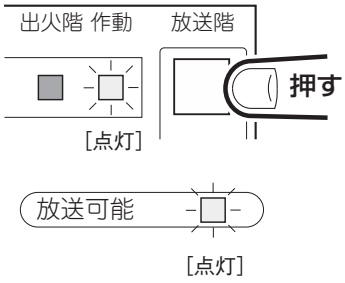
- 非常放送を復旧させるとき、このスイッチを押します。

設置時の点検

■動作点検(業務放送)

- 停電時は、業務放送ができません。
- 本機は、後押し優先方式を採用しており、業務放送時には、常に後から操作した機器が優先します。

1 任意の放送階選択スイッチを押します。放送可能表示灯が点灯、押された階の作動表示灯が点灯しますか?



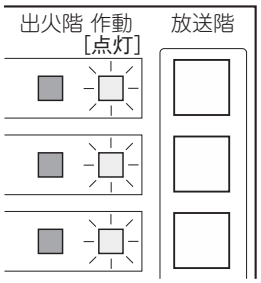
- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。(作動表示灯が緑色に点灯。)
- 一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチまたは、放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯し、放送可能状態となります。

2 コールサインスイッチを押します。1で押した階にコールサインが鳴りますか?

- 放送したい場所の放送階選択スイッチまたはブロック選択スイッチを押した後に、コールサインスイッチを押します。

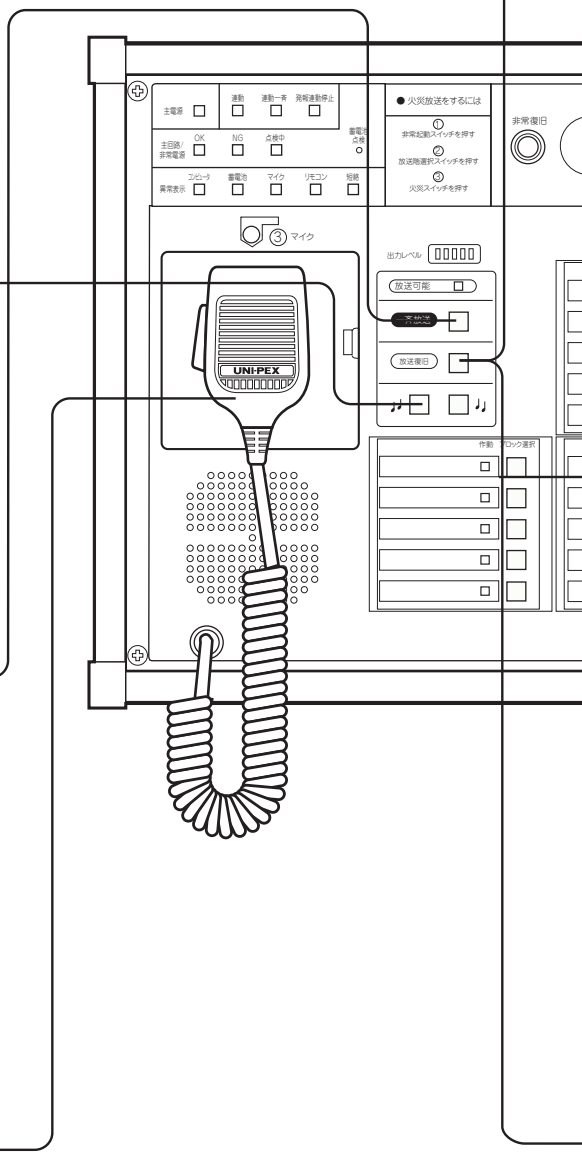
3 一斉放送スイッチを押します。すべての作動表示灯が点灯しますか?

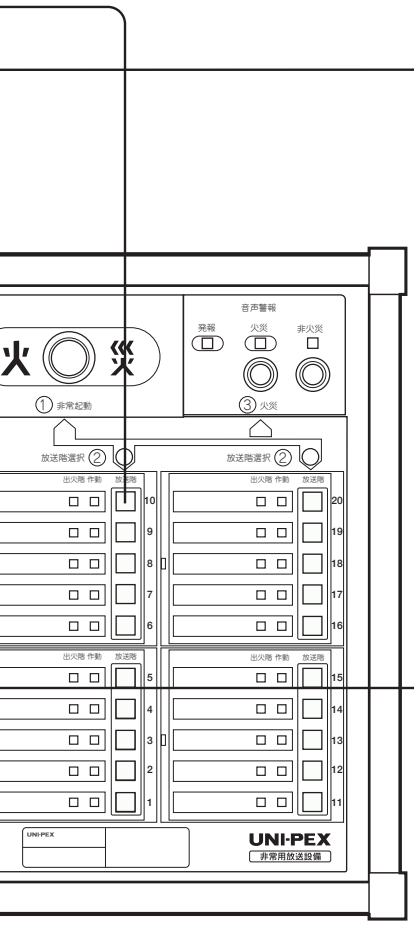
- 一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。



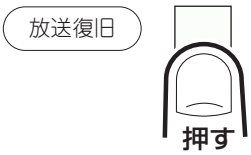
4 マイクをはずし、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、アナウンスが全館に流れますか?

- スイッチを押しながら放送します。



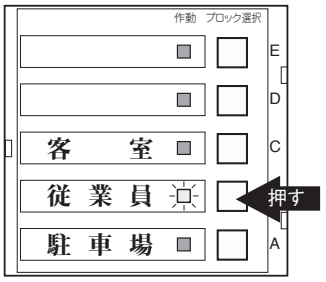


5 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。作動表示灯、放送可能表示灯が消えスピーカー放送も切れますか?

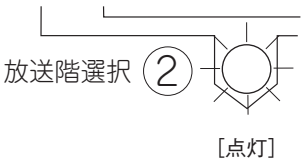


- 放送復旧スイッチを押すと、作動表示灯、放送可能表示灯が消えます。

6 ブロック緊急指定したブロック選択スイッチを押し、アナウンスします。放送階選択指示灯が点灯し、ブロック緊急指定された場所の作動表示灯が点灯し、アナウンス放送が流れますか?



- 指定した場所の作動表示灯が緑色に点灯し、放送階選択指示灯がオレンジ色に点灯します。



7 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。作動表示灯、放送階選択指示灯、放送可能表示灯が消えますか?

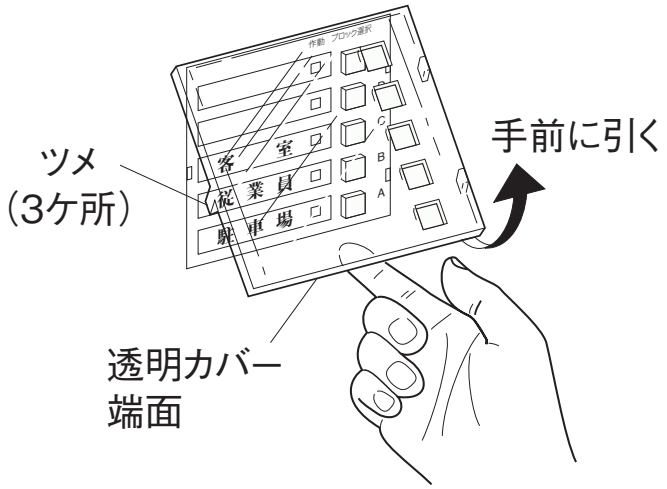
- 放送復旧スイッチを押すと作動表示灯、放送可能表示灯が消えます。

表示カードの使いかた

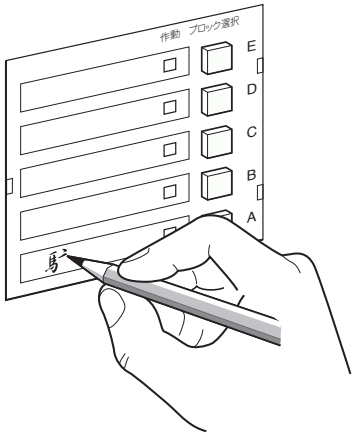
※放送階選択スイッチおよびブロック選択スイッチには、各スピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入する表示カードが付いています。

〈表示カードへの記入方法〉

- 透明カバーの上下の端面に指をかけ、手前に引いて、透明カバーを外します。
- カバーの下の表示カードにスピーカーの設置場所やブロック指定した場所などを記入します。



- 表示カードの記入は、鉛筆でおこなうと、消しゴムで簡単に消えますので、訂正や変更が容易です。



- 記入後は透明カバーをもとの位置に取り付けてください。
- 透明カバーのツメ部分は無理に力を加えると折れてしまいますので、取り付け、取り外し時にはご注意ください。

保守点検のしかた(保守点検者の方へ)

ご注意

非常放送設備の保守は、消防設備士(第4類甲、乙、第7類乙)または、第2種消防設備点検資格者でなければおこなえませんのでご注意ください。

■点検について

- 本機にはセルフチェック機能があり、コンピューターがリモコン回線、コンピューター自身、スピーカー回線(短絡)、マイクを常時点検し、24時間おきに蓄電池の点検をおこないます。
- コンピューターが異常を発見したときは、非常操作パネル左上の各異常表示の表示灯が点灯し警告音(ブザー:ピー)が鳴ります。どこの異常かを確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。(異常は本体か非常リモコンか確認してください。)

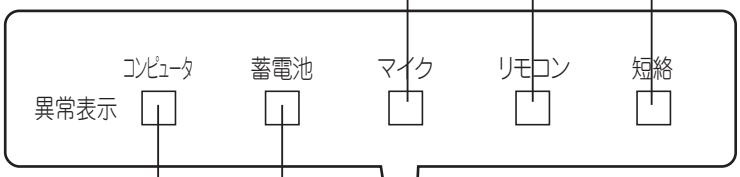
●警告音を止めるにはいずれかのスイッチを押してください。

- 一時的に止めることができます。異常表示の表示灯は点灯したままです。(コンピューター異常表示灯点灯時を除く。)

リモコン異常表示灯(赤色)
非常用リモコンとの回線が異常なとき点灯します。異常のある非常用リモコンのリモコン回線異常表示灯が点灯します。

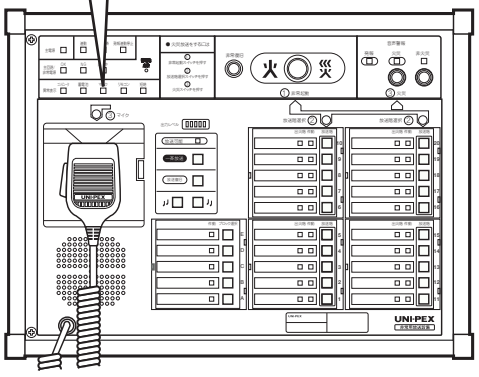
短絡表示灯(赤色)
スピーカー回線が短絡すると点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

マイク異常表示灯(赤色)
マイクが断線状態になると点灯します。リモコンのマイク異常であれば、異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。



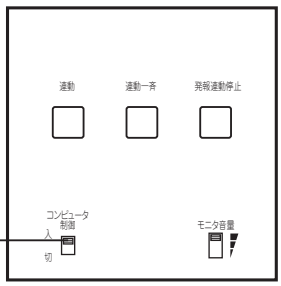
コンピューター異常表示灯(赤色)
コンピューターが異常のとき点灯します。

蓄電池異常表示灯(赤色)
蓄電池が異常のとき点灯します。
ブザーが4秒おきに鳴ります。



コンピューター異常、蓄電池異常、マイク異常、リモコン異常、短絡異常になったとき、復旧後は、コンピューター制御スイッチを「切」にしてから(リセット)、「入」にしてください。

マイクドア内

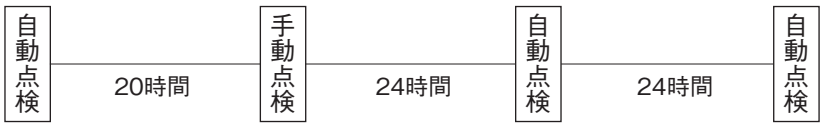


日常点検

■電源の点検

メ　モ

- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピューターが24時間おきに蓄電池の点検を自動的におこないますが、手動でも点検がおこなえます。
- 手動で点検をおこないますと、コンピューターは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



●自動点検

コンピューターが24時間おきに点検をおこないます。

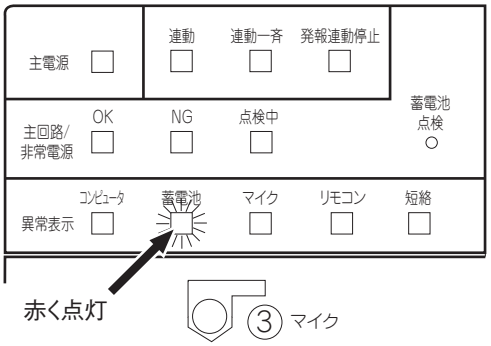
〔コンピューターが蓄電池の異常を発見したとき〕

- 異常表示の「蓄電池異常表示灯」が点灯し、4秒おきにブザー音（ピー）が鳴ります。

〔処置〕

- 操作パネルのいずれかのスイッチを押すとブザー音（ピー）が止まります。販売店または、保守契約店にご連絡ください。
- ブザー音（ピー）が止まっても異常表示灯は赤く点灯したままです。

コンピューターが異常を発見したとき



●手動点検

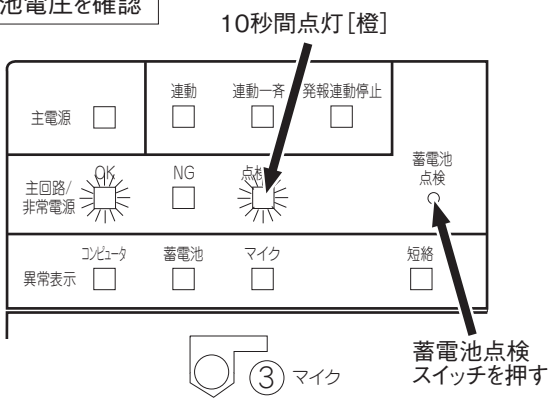
1. 主回路電源電圧を確認してください。

非常用放送設備本体の非常電源電圧点検スイッチを押さないときに、主回路／非常電源のOK表示灯（緑色）が点灯していることを確認します。

2. 蓄電池電圧を確認してください。

蓄電池点検スイッチを押して、主回路／非常電源のOK表示灯（緑色）が点灯していることを確認します。点検中表示灯（橙色）が約10秒間点灯します。

蓄電池電圧を確認



⚠ 注意

蓄電池の電圧の点検は、非常用放送設備本体も含め1日の点検で2回以内までとしてください。
指定回数より多く蓄電池点検スイッチを押したり、押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、非常時に本システムが動作しなくなる恐れがあります。

●蓄電池(非常用放送設備側)の交換について

⚠注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する

感電の原因となります。

- 蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。
- 点検の際容量不足があれば、新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。

Ni-Cd

このマークはニカド電池のリサイクルマークです。ご使用済のニカド蓄電池は貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないで、ニカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

⚠警告

●蓄電池は、使用開始日から4年を経過したら、点検時に正常電圧が表示されても必ず新しい蓄電池に交換してください。また、寿命は使用状態により異なりますので、それ以前でも点検時に容量不足があれば、新しい蓄電池に交換してください。

●交換は保守契約店または工事店にご依頼ください。

⚠注意

●蓄電池を交換する際は電力増幅ユニットのワット数に合わせて必ず指定のものを使用してください。
これ以外の蓄電池を使用することは充電電流の違いなどから過充電などの危険な状態になりますので絶対に使用しないでください。

●蓄電池を交換する場合は、電力増幅ユニットなどの電源スイッチを「入」にした状態でおこなってください。

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社
〒573-1132 大阪府枚方市招提田近3-6 TEL.(072)855-3334(代)

お客様控え欄

お買い上げ年月日	年　月　日
販売店名	

メモ